

大槌の教育「ふるさと科」を中心に据えた 小中一貫教育と地域との連携



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
大槌町立 吉里吉里小学校	吉里吉里学園学校運営協議会 平成27年4月1日 指定	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 1名 0名	—
大槌町立 吉里吉里中学校	吉里吉里学園学校運営協議会 平成27年4月1日 指定	地域学校協働活動推進員 0名 0名 地域コーディネーター 1名 0名	—



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

吉里吉里地区は、学校と地域との結びつきが大変強い地域であり、学校の歴史は吉里吉里地区の歴史でもある、と言えるほど密接な関係を構築してきた。平成27年度に小中一貫校(校舎分離型)に移行した段階で、「小中一貫教育を考える会」と「学校運営協議会」を設置し、それまで築き上げてきたことを土台として、「地域社会に貢献できる人材」となるよう児童生徒の育成に資する取組を継続してきた。

目標や目指す姿(学校)

学園グランドデザイン「確かな学力」「豊かな人間性」「健康な心と身体」「未来に生きる郷土愛」の達成と信頼される学園づくり

目標や目指す姿(地域)

学校運営に積極的に参画することにより、地域住民の意向を共有し、創意工夫と特色ある学校づくりを目指す



吉里吉里学園学校運営協議会 の特徴

委員の立場や属性等

- 地区教育振興運動協議会長
- 地区民(消防団代表)
- 小中PTA・保護者関係者
- 学識経験者
- 公民館長
- 校長、副校長
- 地区自治会代表
- など、計 **18** 名で構成
- 保育園・こども園関係者
- 年間平均 **3** 回程度開催

効果的な運営の工夫

協議会長、事務局員3名による事前の資料検討と打ち合わせを行い、協議の柱立てを行ってスムーズな意見交流に繋げている。
学校運営協議会での定期的な議題として、①学園運営基本方針の確認、②学校評価に関する意見交流・提言、③年度の反省や次年度への要望などを3回に分けて協議しているが、それ以外にも時宜に合った内容について忌憚なく意見交流して、学校の運営ばかりでなく、地域行事や取組についても全員で臨む意義や体制が確立できている。
今後は事前の資料配付や簡素化に向けて取り組んでいきたい。



特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

学校運営協議会は、学校教育目標実現のための重点項目について、地域がどのように関わり支援するか協議し、地域の方々が普段の生活や各行事を通して、地域の子どもたちを地域で育てる仕組みづくりを確立している。この協議会が要となり、学校・家庭・地域の協働体制が充実している。



町CS委員会から

地域学校協働活動

地域の方々は、「ふるさと科」の学習において、講話や指導等に全面的に協力していただき、児童・生徒はふるさとを知り、そのよさを実感させることができるなど、成果を挙げている。さらに防災教育や郷土芸能伝承活動、吉里吉里海岸清掃活動、長期休業中の居場所づくりについても学校と協力の下、積極的に関連付けて活動している。



郷土芸能伝承活動

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

大槌町では、学校運営協議会はコミュニティ・スクールの中に包括的に位置づけられてきたが、令和3年度より実施の評価・検証の主体を学校運営協議会に移行し、より明確な役割や目標が掲げられたことにより、それぞれの特色を活かした活動を展開することができるようになった。このことから、これまで積み重ねてきた歴史や伝統に加えて、現時点での課題を明らかにしながら、より具体的で実践的な活動を仕組んでいくことができると思われる。

取組

成果・効果

学校運営協議会発足以前から、吉里吉里地区の学校に対する興味関心、協力体制は大変強力なものであった。地域に開かれた学校であり、地域によって守られてきた学校であるとも言える。それがさらに、この学校運営協議会制度の確立によって、教科指導における関わり、行事における関わり、地域活動における関わりなど、その関係性は強固で確かなものとなっている。
令和3年度に大槌町コミュニティ・スクールにおける学校運営協議会の位置づけや役割が改定されたことにより、学校運営や学校評価などについても、より一層具体的な意見や様々な提言を受けることができるようになった。そして、令和4年度も学校目標や学校での活動を提案、協議し各活動に委員を中心に協力を行ってもらっている。小中合同防災訓練への全面的支援、郷土芸能の指導、小中合同芸能発表会の推進も連携して行い効果的に児童・生徒の健全育成に努めることができた。